

平成 21 年度第 5 回 第 2 期宮前区区民会議 宮前区の宝さがし～ときめき再発見部会

日 時：平成 21 年 10 月 16 日（金）18：00～19：15

会 場：宮前区役所 4 階第 1 会議室

参加者：高木部会長、永野委員長、河井委員、谷山委員、千葉委員、恒川委員、渡辺委員

（以上区民会議委員 7 名）

岩佐、成沢（以上宮前区役所企画課 2 名）

岩下（株式会社シー・エス・ケイ）

開会

- ・開会あいさつ
- ・公開の説明
- ・資料確認

議事

（1）部会報告書（案）について

※事務局から報告書（案）の説明があった。

※11 月 13 日開催予定の全体会では今回配布の原稿に加え、部会で過去にまとめた宮前区の資源一覧を付加する。

■意見交換

高木部会長 全体的によくまとまっていると思います。13、14 ページの議論ペーパーは、できれば A 3 の用紙で折込みにしていただきたいです。また、5 ページからの具体的な解決策については、字の大きさ等、もう少しメリハリをつけ、手本となる野川カルタなどについても強調した記述にしてください。

永野委員長 解決策のところは、議論もあったマップづくりなども含めて、もう少し具体的な記述があっても良いと思います。

事務局（仮称）みやまえカルタ制作実行委員会については、呼びかけ団体など、検討の結果をもう少し書く方法もあります。

高木部会長 カルタ大会や、カルタの教育現場での活用など、制作したカルタの活用、広めていく部分について議論したことの記述が抜けています。これは必要だと思います。

恒川委員 実行委員会の構成メンバーについても、記述して良いと思います。

永野部会長 カルタ制作の過程がコミュニティづくりになることを強調したいと思います。

河井委員 実行委員会の名称は仮称ではなく、決めてしまっても良いのではないのでしょうか。

高木部会長 ひらがな表記はやわらかさを感じさせます。

事務局 現在の仮称では“みやまえ”はひらがなです。“カルタ”は外来語ですが、野川カルタでは片仮名。川崎かるたではひらがな表記です。

高木部会長 “歌留多”と漢字で記す例もあります。ただ使ってもらうのが、子どもということ考えると、現在の案の表記が一番良いと思います。

永野委員 取り組みについては、段階別にステップ感を持たせた記述も良いと思います。

高木部会長 6 ページには、区政 30 周年である平成 24 年度までのスケジュールが簡単な表になってい

ますが、それ以降のこと、活用のイメージなどを記述できると良いです。つくるだけではないということをはっきり打ち出したいです。

恒川委員 学校の現場で継承されていくようなものを目指したいです。

コンサルタント 教育現場で末永く活用されるようなものを目指すということはこれまでの議論からも出ていました。

河井委員長 これまでの議論では、絵札について募集はするが、最終のカルタでは統一性をもたせるために、プロのイラストレーターや画家にお願いするという話でした。自分の一生懸命描いた絵がそのままカルタになると思われてしまい、ものすごく一生懸命描いた人ががっかりしないような記述が必要だと思います。

永野委員長 地区別カルタの段階では、絵はそのままで良いかもしれません。区全体のカルタを作るときは、その絵を元に、統一制を持たせるということではどうでしょうか。

事務局 かわさきかるたの時は、イラストレーターの方や水彩画家など複数の方々絵札を描かれています。

恒川委員 委員会の構成メンバーについては、歴史関係の方も入っていたほうが良いでしょうか。

高木部会長 教育現場の方が入る事も重要です。校長会などから参加していただきたいです。子どもが使って楽しめるカルタとなる必要があります。

恒川委員 PTAなども名前があがっていたと思います。

事務局 前回出した資料では、区P協なども入っています。

高木部会長 この実行委員会はカルタづくりを広めていくための委員会ということでしたね。

コンサルタント 全体の進行管理もこの委員会役割になっています。例えば、集まった作品が取り上げている資源に偏りがあった場合、その調整が取れるように働きかける役割などもあります。

永野委員長 実際の取り組み実行に際しては、地区ごとに部会を設置する内容になっています。

高木部会長 それぞれどのようなメンバーを想定するのか、具体的に記述しても良いかもしれません。最後の選考に際しては一部子どもたちにも参加してもらおう方法も考えられます。区全体の実行委員会は15～25名程度を想定していました。

コンサルタント これまでの討議の内容を活かし、取り組みをスムーズに進めるためには、現在の区民会議のこの部会委員にも加わっていただくという話も出ていました。

河井委員 公募は考えるのでしょうか？

永野委員長 公募は必要だと思います。

事務局 地区別の部会の際に入っていただければ良いのではないのでしょうか。

コンサルタント 全体を早く、スムーズに動かすことも重要です。

高木部会長 スタート直後、基本や方針を固めていく段階では公募は考えなくても良いと思います。

事務局 カルタづくりは行政からの委託を想定しています。実行委員会が立ち上がってから、そもそも論になってしまうと少し困ります。今のところ、全町連、観光協会、老人クラブ連合会、社協、民児協、地域教育会議、区P協、核となる団体としてグリーンフォーラム21、歴史文化調査委員会、榊フューチャーリンク、小学校校長会、事務局として区役所から企画課と地域振興課を想定していました。

永野委員 細かく固めた内容として団体名を入れる必要はないと思いますが、こうした分野の方には入っていただきたいという範囲で記述しておく方が良いのではないのでしょうか。

カルタづくりの進め方や主旨を早めに区民に周知する広報方法は、できるだけ早くから考えておく必要があります。最初の場が区民会議フォーラムになるのでしょうか。

事務局 区民会議フォーラムについては、企画部会で検討を進めていきたいと考えています。開催時期が、他のイベントとの兼ね合いで難しくなってきました。3月14日に自治推進関係のフォーラムがあり、そちらには永野委員長にでもらわなければなりません。連続開催になるとつらそうです。

高木部会長 ラブ・みやまは、今年度は2月27日の開催予定です。

事務局 年度末はイベントが目白押しです。

河井委員 宮崎台小学校の総合学習が先日終わったのですが、これから地域のカルタをつくっていくことは先生方にも既にご理解いただき、子どもたちに話もしています。

ところで野川カルタはホームページで見えるのでしょうか。

高木委員 地区社協の取り組みなので、まだなかなかそこまでは至っていないようです。

河井委員 宮前ぼーたろうを活用して、カルタづくりの予告と合わせて、ホームページで紹介してはどうでしょうか。

高木委員 今回の提案がオーソライズされた時点から、そうしたPRもどんどん展開していけると良いです。まだ野川カルタも野川地区以外ではまだあまり知られていない現状があります。

永野委員 まちづくり協議会で、今度HPの作り方講座を開く予定です。野川カルタの方々に呼びかけて参加していただければどうでしょうか。

河井委員 総合学習などは学校によって、かなり内容や事情も違うようです。自分の地域の学校はよくわかるのですが、その他の地域にうまく主旨が説明でき、浸透させていけるのかどうか、不安もあります。

高木部会長 区全体で少しでもうまく進むように、この地域ではこういう風にカルタをつくりましたという発表もどんどんイベントなどでしていきたいです。

永野委員長 できあがったカルタの普及版があることも大切だと思います。入手が難しかったり、値段が高いようでは困ります。かわさきかるたや野川カルタは確か千円で販売しています。

河井委員 野川で作成していた札の一覧ポスターのようなものも作成できると良いと思います。

※討議の内容を反映させた案を、各委員に送付させていただき、企画部会、全体会の開催前に内容の調整を行うことを確認した。

(2) その他

■今後の進め方について…準備会の立ち上げなど

事務局 部会としての開催は提案がある程度まとまれば、今回は最後と考えていました。

高木部会長 全体会で提案内容が固まった後は、実行委員会の準備会を年度内に開催し、準備を進めても良いと思います。年度が変わる前に動き出し、各地域に説明に行く際の説明資料やマニュアルの検討などはどんどん進めたいです。

永野委員長 地域での部会のつくり方などもまだ詰まっていません。その辺りの検討も必要です。

高木部会長 まずは小学校に働きかけることから始まるイメージを持っています。地域教育会議などや中学校区に最初に当たっていく方法は難しいかなと感じています。

■部会活動を振り返って…委員感想

高木部会長 途中どうなることかと不安だった時期もありましたが、カルタという形が見える提案にまとまり、大変良かったと思います。区民みんなで取り組める良い提案ができたと思自負しています。今の子どもたちには、カルタではなく、カードゲームのような形式も考えられるのかなと思っています。

カルタにしても、地区対抗で楽しむような形ができていくと良いとおもいます。柔軟な発想で望みたいのです。

谷本委員 途中からの参加ということで、わからないこともまだ多いというのが正直なところですが、地域のみんなで作っていくという提案はとても良いとおもいます。10年後にも思い出せるようなものをぜひ作っていきたいです。

恒川委員 1年半もの検討期間でしたが、あっという間と感じたと同時に、とても楽しみながら参加できました。夢がある話がありました。今日もシニアライフの講座で市民館に来ていた講師の方から宮前区の資源について尋ねられた時に「人材くらいしかないのではないか」という発言もあったのですが、「とんでもない。影響寺もあるし、本当にたくさんの資源がある」と言っていたところです。今回の提案が、区民が足元の地域の資源をもう一度見直す良い機会としていきたいです。うまく発展していくことを期待しています。

千葉委員 こうした行政関連の会議には、初めての参加でした。まだ慣れておらず、あまり発言できませんでした。これまでインターネット上でイベント情報や広告を掲載するだけだったのですが、取材を通じてその裏にある歴史や背景、人々の動きなどが見られて良かったと思います。宮前ぽ一たろうを広める機会をいろいろと与えていただけたのも良かったです。

渡辺委員 第1期から引き続きの参加でした。第1期は非常に忙しかったと感じたのですが、今期はその反省も活かし、1テーマの検討に1年半かけたということで、ゆとりがあり、議論もしつくせたと感じています。楽しい部会でした。部会長のキャラクターもあったと思います。今後は実行委員会でのこの提案の実現に向けて頑張っていきたいと思います。

永野委員長 最初は“区の顔づくり”ということで、「それだけでは、なかなか区民の興味を引けないので」と、実は危惧していましたが、全区民が参加し、関わっていくようなしくみ、その過程を楽しく提案することができ、非常に良かったと思います。コミュニティづくりに役立つ提案ができたと思います。

河井委員 カルタづくりは、これまで周りのいろいろな人に話していても、受けや反応が良いです。委員を引き受けるまでは、区民会議を全く知らず、年4回ほどの会議に出れば良いと聞いていました。実際にはもっと会議がありましたが、おそらく私は皆勤だったのではないのでしょうか。毎回とても楽しく参加できましたし、これまで自分の活動であるガーデンづくりという狭い範囲を通してしか知らなかった市民活動や宮前区の資源について、この部会への参加を通して、様々なお話を聞くことができ、たくさんの発見があり、大変勉強させていただきました。私自身、最初は片足をちょっと入れてみたことをきっかけに、今は両足深く突っ込んで関わってしまっていると思います。今後も楽しみながら、実際の取り組みを進めていきたいです。

高木部会長 1期からコミュニティづくりという課題を継承する形で検討を進めてきました。私のつたない進行で話が飛ぶこともあったかと思いますが、宝探しからカルタづくりということで、区民の皆さんの力を合わせながら、物をつくり、使っていこうということで、具体的な物が見えてきました。皆様のご協力のおかげです。この先の実行委員会も非常に楽しみです。このカルタづくりが盛り上がったなら、ぜひマスコットづくりなどにもつなげたいなと個人的には思っています。これからもご協力をお願いいたします。

(以上)